

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和4年12月13日

提出区分	実績	整理番号	4	課題区分	C
横断的な課題	With/Afterコロナ時代においても選ばれる持続可能な山岳観光地域づくりの推進				
地域重点政策	1 北アルプスの恵みと人々の知恵を活かした産業の振興				北アルプス地域振興局
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属 農地整備課
事業名	「水と生きる」サントリーとともに育む『 ^{マイ} 米ストーリー』			電話	0261-23-6514
				E-mail	kitachi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	大町市常盤で2021年5月に稼働を始めた「サントリー天然水北アルプス信濃の森工場」の社員は、ほとんどが県外出身者である。社員が地域を知るきっかけとして、農業体験を通じて地域住民との交流を図ることを通じて口伝えによる地域の魅力発信や、サントリーの企業ブランドを活用し、ブログ等を活用した北アルプスの清涼な伏流水を活用した農産物の魅力を広く情報発信することにより地域の活性化を図る。			
	現状と課題	サントリー天然水北アルプス信濃の森工場が操業を開始したが多くの社員が地域との交流の場がないことや、地域の地場産業でもある農業を体験したことのない県外出身が多く、地域や地域の人々との交流の場などが求められている。 また、北アルプスの清涼な伏流水を活用した農産物というイメージが広く地域内外の方々に認知されていないため、付加価値の高い農産物というイメージが薄い。			
	内容 (変更後の内容)	【事業内容】 ○サントリーの社員による農業体験を行う。 (農業体験を通じて北アルプスの伏流水の温度や透明度、土の感触などを体感する。また、農作業の合間などを利用して、“米”ができるまでの生育ステージの説明や苦労など農家との交流を図る。) ※「サントリーの社員が地域の魅力を知るため、農業体験を行いました」ということを情報発信することにより、北アルプスの伏流水を活用した当管内のお米はおいしいということを広く内外の方に認識してもらう。 農業体験を行った田んぼのお米を“ぬかくど”(地域の伝統的な炊飯釜)により炊いて試食(収穫祭)を行う。炊飯時間を活用して地域の食文化や農作物について農村生活マスターの講演を通じて理解を深めてもらう。 【対象作業】 ○田植え ○稲刈り ○収穫祭			
	事業期間	令和4年4月 ～ 令和4年12月			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考	
	農業体験事業	田植え	72,729		
		稲刈り	7,410		
		収穫祭	6,200		
合 計		86,339			
指標及び達成状況	成 果 指 標		目標値	成果	達 成 状 況
	農業体験における参加者数		40人	92人	● 達成
	農業体験における満足度		70%	93%	○ 一部達成
					○ 未達成
事業実績・成果	(事業実績) 田植え体験27名、稲刈り14名、収穫祭51名が参加し、農業体験を通して北アルプスの伏流水の冷たさや土の感触、イナゴなどの昆虫などに触れることにより、豊かな自然を体感した。日程が合わず参加できなかった方々も収穫祭において、自分たちの仲間が栽培したお米を試食することで、農業体験への参加希望が多く寄せられた。 アンケートの結果から、農業体験をした方は、9割以上が満足しており、どちらかといえば満足を合わせると100%の方が満足という結果となった。また、田植え又は稲刈りを体験した人は、継続して農業体験に参加したいと回答するが、どちらも体験していない人は、作業内容などのイメージができず、わからないから参加したいと思わないやどちらとも言えないという回答が見られた。 (事業の成果) 体験を通して感じた地域の魅力は、次の活動や地域活動への参加意欲に結びついており、今後のサントリープロダクツ(株)が地域と連携した活動に取り組んでいく第一歩が踏み出せた。一例として、サントリープロダクツ(株)が独自に行う社内イベントにおいて、農村生活マスターに地域の食文化などについての講演依頼をするなど地域で活動する方々との交流の輪の広がりが見える。				
	今後の方向性	地域で行う農業用水路の草刈りや泥上げ、農道の草刈り等の協同作業をサントリープロダクツ(株)に紹介するなど地域との交流が図れるよう支援を継続していきたい。			